

1 BNP から NT-proBNP への変更に伴う比較  
2 検討と変更後の臨床医からの評価

3  
4 ○脇川友宏（谷津保健病院BML検査室）、  
5 浅野礼江（谷津保健病院）

6  
7 目的：BNP は心不全マーカーとして診断および経過  
8 観察に広く利用されている。しかし測定対象が血漿  
9 で半減期が短く安定性が保てないという点があった。  
10 それに対し NT-proBNP は血清での測定が可能で安定  
11 性に優れているという点があり、当施設では診察前  
12 検査を BNP (AIA360) から、NT-proBNP (HISCL2000i) に  
13 変更を行った。その際行った BNP (AIA360) と  
14 NT-proBNP (HISCL2000i) との比較検討、NT-proBNP は  
15 エクルーシス(ロシュ・ダイアグノスティックス試  
16 薬)と HISCL2000i(シスメックス試薬)の比較検討を  
17 行ったので報告する。また変更後臨床医に簡単なア  
18 ンケートを行ったので合わせて報告する。

19 方法：対象はBNP の依頼があったルーチン検体。BNP  
20 は AIA360（東ソー）、検体は血漿。NT-proBNP は①  
21 HISCL2000i と②エクルーシス、共に検体は血清を用  
22 いた。NT-proBNP 切り替え 6 ヶ月後当施設循環器内  
23 科の医師 5 名を対象に簡単なアンケートを行った。  
24 結果：BNP と NT-proBNP との相関は  $Y=9.33X+3.26$ 、  
25  $r=0.764$  であった。NT-proBNP のロシュ試薬とシスメ  
26 ックス試薬との相関は  $Y=0.972X-24.2$ 、 $r=0.998$  であ  
27 った。シスメックス試薬はロシュ試薬と遜色ない結  
28 果であり、BNP から NT-proBNP (HISCL2000i) へ変更を  
29 行った。アンケートの詳細結果については、当日発  
30 表する。

31 結論：当施設では、血清での測定が可能で安定性に  
32 優れた NT-proBNP (HISCL2000i) への変更は、分析時  
33 間が短く後からの追加が可能なことから非常に有用  
34 であった。また、臨床医のアンケートの結果、診察  
35 前検査は役立っており NT-proBNP の数値に慣れさせ  
36 すれば日常検査において有用な検査と考えられた。  
37 連絡先：047-451-3482

38  
39